

令和4年度  
外部評価報告書

令和5(2023)年3月  
八戸工業大学外部評価委員会

## 目 次

I. 八戸工業大学外部評価の総評と提言	1
II. 個別の評価結果及び各委員からの評価とコメント	2
III. 八戸工業大学外部評価委員会の実施について	3
IV. 八戸工業大学外部評価委員会 記録	5
V. 資料一覧	9

## I. 八戸工業大学外部評価の総評と提言

令和4年度の八戸工業大学外部評価委員会は、令和5年2月14日（火）に八戸工業大学大会議室にて一部オンライン形式により開催された。事前資料とともに提示された評価項目について、大学側からの説明があり、それを踏まえて質疑応答が行われた。外部評価委員は、事前に送付された資料を基に評価したうえで、委員会当日の説明と協議により総評とした。

八戸工業大学においては、教職課程に関する自己点検・評価活動について詳細かつ適正に取り組みを実施しており、今後の改善が望まれる事項を含め、概ね高く評価するものである。以下、外部評価委員会の総評および提言を示す。

### 1. 八戸工業大学 教職課程自己点検・評価活動

八戸工業大学の教職課程は、組織の構築、学生の育成、キャリア支援、地域との連携・実践的な指導力育成プログラム等真摯に取り組み、カリキュラムも整備されており高く評価できる。また、学内での自己点検・評価活動において資料も詳細に作成し、実施体制が確立されている点も高く評価できる。

近年、教育に携わる人材の輩出について、産官からの期待と要望は大きい。教職課程担当教員の労力は少なくないと伺われるが、志ある教員志望者を養成するうえで大変重要な取り組みであるため、継続性を担保するには効率的な仕組みの構築と人員配置の検討が必要であろう。

今後は、教職課程教育の目的・目標を明確に学生へ可視化し共有することで、引き続き学生に教育の素晴らしさや、教職課程の状況等を具体的に伝え、履修者の増加・人材育成に繋げていただきたい。

また、同時に外部への情報発信も望まれる。この自己点検・評価のPDCAサイクルにより改善された後の結果を含め、教職課程の長所を「見える化」し、外部へ情報を発信していくことにより、八戸工業大学の存在意義が社会に広く伝わりさらなる発展につながることを期待する。

令和5年3月7日

八戸工業大学外部評価委員会  
委員長 圓山重直

## II. 個別の評価結果及び各委員からの評価とコメント

### 1. 八戸工業大学 教職課程の自己点検・評価活動状況について

- A (3点) 適切、十分である
- B (2点) 部分的な改善が望まれる
- C (1点) 不適切、不十分であり、早急な改善が必要

評価：2.2点 (各評価員の平均)

評価ポイント (改善点・要望等含む)

- ICT 機器を活用した教育課程カリキュラム等について整備されていることが高く評価される。
- 地域に根ざした体験活動など、実践的指導力育成プログラムが高く評価される。
- 教育課程教育の目的・目標をさらに明確にしてそれらを、学生に可視化してゆくことが望まれる。
- 自己点検・評価活動について、体制を整備して計画的に実施し、課題の洗い出しが行われており、評価できる。
- 課題の一つとして、大学としての広報や情報発信が挙げられているため、教育課程について、より積極的な周知・情報発信を行うことを期待する。
- 教職をめざす学生が途中で諦めることが多いので、内容の充実と面談をきちんと行ってほしい。ハードルが高いので、学生のフォローに十分注意することを望む。
- 専任教員は3名配置のところ2名である。定員の配置を望む。
- 「八工大教職課程自己点検評価」の実施については、参考資料4の「6.実施スケジュール」にあるとおりに行われており、教職課程の組織構築、学生の育成、キャリア支援教育課程の編成と実施、地域社会との連携などに真摯に取り組んでいることが資料全体から把握できたので、評価するものです。
- 基準領域 1-1 について、対応組織体制及び周知の更なる努力に期待する。
- 基準領域 1-2 について、適切かつ十分な取組努力がなされている。
- 基準領域 2-1 について、新入生対象のガイダンスの更なる充実、また個別面談及び履修カルテの積極的な活用により、教職に向かう学生の質の向上が図られていくことを大いに期待している。
- 基準領域 2-2 について、更に労力が必要になると思われるが、学生との面談を通じ、個々の学生を育て、更に高い意識の向上を図るよう努めていただきたい。
- 基準領域 3-1 について、適切かつ十分な取組努力がなされている。
- 基準領域 3-2 について、適切かつ十分な取組努力がなされている。貴学出身の高校教員等を招く取組は更に充実させてほしい。
- 前向きな取組が多く、貴学の今後に大いに期待している。様々な取組を通じて、知識や技能はもちろん、社会に貢献しようとの思いを持つ学生を一人でも多く育ててほしい。

### Ⅲ. 八戸工業大学外部評価委員会の実施について

#### 1. 八戸工業大学外部評価委員会規程

##### 八戸工業大学外部評価委員会規程

令和元年12月19日 制定（自己点検・評価運営委員会）  
令和4年 1月27日 改定（自己点検・評価運営委員会）

##### （目的）

第1条 この規程は、八戸工業大学自己点検・評価取扱要綱第5条第3項に基づき、八戸工業大学外部評価委員会（以下、「委員会」という。）の組織および運営について、必要な事項を定める。

##### （業務）

第2条 委員会は、評価項目に関する自己点検の報告を受け、本学の教育研究水準の向上および組織ならびに運営活性化に資するための提言を行う。

##### （評価項目）

第3条 八戸工業大学自己点検・評価運営委員会（以下、「運営委員会」という。）は評価項目を学長に提案し、学長が決定する。

##### （組織の構成）

第4条 委員会委員は、学校法人八戸工業大学の役員および教職員ではない、次の各号に掲げる者から学長が選考し、委嘱する。

- 一 大学等の教育機関の教員
  - 二 八戸工業大学の所在する地域の関係者
  - 三 前各号に定める者以外に、大学に関して広くかつ高い見識を有する者
- 2 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 委員長は、委員の中から学長が指名する。
- 4 副委員長は、委員長が指名する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 6 委員会には、学校法人八戸工業大学の役員及び教職員より、点検・評価に責任を持つ専任教職員が必要に応じて陪席する。

##### （委員会の運営）

- 第5条 委員会は、学長の要請を受けたとき、委員長が招集する。
- 2 委員会は、委員の委員会は、委員の過半数の出席がなければこれを開くことができない。
- 3 委員長は、議長となる。
- 4 委員長は、評価の結果および改善を求める提言事項を外部評価報告書にまとめ、学長に提出する。

##### （守秘義務）

第6条 委員は外部評価に関わる業務を遂行するにあたり知り得た事項について、これを第三者に漏洩してはならない。

##### （事務局）

第7条 委員会の事務は、八戸工業大学社会連携学術推進室が行う。

##### （既定の改廃）

第8条 この規程の改廃は、運営委員会において、決定する。

##### 附 則

この規程は、令和元年12月19日から施行する。

この規程は、令和4年1月27日から施行する。

# 八戸工業大学外部評価委員会

## 2. 委員一覧

令和5年2月14日現在

### 八戸工業大学外部評価委員会委員名簿

- ・委員 圓山 重直 八戸工業高等専門学校 校長  
(委員長)
- ・委員 佐々木 郁夫 八戸市 副市長
- ・委員 東 康 夫 一般社団法人 青森県工業会 会長  
(東北化学薬品株式会社 取締役会長)
- ・委員 八木 澤 聡 公益社団法人日本技術士会東北本部青森県支部 支部長  
(東信技術株式会社 専務取締役)
- ・委員 種市 朋哉 青森県立八戸北高等学校 校長

(順不同)

## 3. 八戸工業大学外部評価委員会

### 令和4年度 八戸工業大学外部評価委員会

日時：令和5年2月14日(火) 13:30～14:30

会場：八戸工業大学 2号館3階 大会議室  
(オンライン併用)

#### < 次 第 >

1. 学長挨拶：八戸工業大学 学長 坂本 禎智
2. 委員長挨拶：八戸工業高等専門学校 校長 圓山 重直
3. 令和4年度八戸工業大学外部評価委員会 (進行：圓山 重直)
  - 1) 教職課程自己点検・評価について (質疑含め30分)  
学長補佐 金子 賢治
  - 2) その他

以 上

#### IV. 八戸工業大学外部評価委員会 記録

日 時： 令和5年2月14日（火）13:30～14:30

開催形式： 対面・オンライン併用型開催

出席： 委員長 圓山 重直 八戸工業高等専門学校 校長

委員 佐々木 郁夫 八戸市 副市長

委員 八木澤 聡 公益社団法人日本技術士会東北本部青森県支部 支部長  
(東信技術株式会社 専務取締役)

委員 種市 朋哉 青森県立八戸北高等学校 校長

オンライン出席： 委員 東 康夫 一般社団法人青森県工業会 会長

(東北化学薬品株式会社 取締役会長)

陪 席： 坂本 禎智 八戸工業大学 学長

金子 賢治 〃 学長補佐・地域産業総合研究所長・社会連携学術推進室長

阿波 稔 〃 学長補佐・学務部長

佐藤 昭雄 〃 基礎教育研究センター長

大野 和弘 〃 事務部長代行・社会連携学術推進室次長

鈴木 寛 〃 社会連携学術推進室次長・入試部次長

太田 勝 〃 社会連携学術推進室次長

西村 恵 〃 社会連携学術推進室

齊藤 克治 〃 社会連携学術推進室

黒滝 泰世 〃 社会連携学術推進室

菅野 優子 〃 地域産業総合研究所

資 料： 1. 次第

2. 八戸工業大学 教職課程自己点検評価 報告書（案）

3. 令和4年度八戸工業大学 教職課程自己点検・評価結果

4. 関連資料・根拠資料

進 行： 社会連携学術推進室 西村 恵

1. 学長挨拶： 坂本 禎智

外部評価委員会の目的や大学の現状等を交えて、挨拶があった。

2. 委員長挨拶： 圓山 重直

外部評価の趣旨説明と近年の外部評価結果、自己点検活動への慰労を交えて、挨拶があった。

3. 令和4年度八戸工業大学外部評価委員会

議事進行： 委員長 圓山 重直

1) 八戸工業大学教職課程自己点検・評価について

金子学長補佐から、教職課程に係る体制と自己点検に至る経緯、評価結果等について説明がなされた。内容等について、種々意見交換の後、委員長から講評が述べられた。

【委員からの意見・質問】

○A 委員：

教職課程については、個別指導や面談、学生の履修状況確認、専任教員および教職科目担当教員による学生への手厚く丁寧な支援・指導の実施がうかがえ、敬意を表したい。自己点検評価活動について体制を整備し計画的に実施しており、長所や課題の洗い出しや、改善の方向性等への議論も深まり、評価できるものとする。

北東北随一の工業都市である八戸市が今後も発展するには、工業技術者の確保・育成のみならず、時代の流れに即した人材育成をする教職課程の役割は大変重要である。報告書上、課題の一つとされている大学としての広報・情報発信については、理系の高等教育機関として工業都市の形成・発展に大きな役割を担う教職課程を有していることを積極的に周知・情報発信して欲しい。また、教職課程の実践の場として今後も法人グループ校との連携に期待する。

○B 委員：

大学は教職課程の自己点検・評価を非常に細かくシビアに実施している。現在の取り組みや考え方、交流等を外部に発信することで、更に良い自己評価ができるだろう。大学の細かな取り組みに対する評価が、青森県全体に認識されることを期待しているが、労力をかけた取り組みがきちんと反映されているのか、考えを聞きたい。また、工業界としては、八戸工業大学が青森県内に存在する意義が大きいと考えている。社会の状況変化に対応する国の動きは遅れがちという感があるが、これからの時代にどのような姿を想定し、人材育成の未来像をどう考えているか、お聞きしたい。

●坂本学長：

本学は自己点検を平成の早い時期から実施し、一般社団法人日本技術者教育認定機構（JABEE）認定活動も10年ほどをかけた工学部全学科が受けている。エビデンスを示しながら自己点検を実施する作業について、各教職員は体得しているという状況にある。公益財団法人日本高等教育評価機構（JIHEE）認証評価に対しても相応しい教育の中身を学生に提示し、やってきた自負がある。今回の教職自己点検についても、これまでの姿勢を続けた結果の一つである。

しかし、学生の状況・質・視点も変わってきており、それに対応すべく教育の中身を検討し続けなければいけない。これからやるべきことは、まだまだたくさんあり、そのための点検評価作業には粛々と取り組む。本学はそれだけの力を持っている。

近年、ソ連のウクライナ侵攻、エネルギーに係る問題、あるいは地域の問題等、様々な状況が我々の生活を取り巻き、また、社会構造や産業構造、就業構造も目まぐるしく変化している。その流れの中で、開学50周年を迎えた本学が人材育成の未来像として重要視するのは、自らが持つ知識・技術等を新たに繋ぎ、創造・応用するなど、柔軟に、専門的知識と応用力と人間力を駆使して、社会の課題に対応しこの世の中を生き抜く人材の育成である。そのために、学生たちへどのような教育を提供しなければならないのか。本学は6年間のAP事業で「20の修得因子」に重きを置き、それを成長させるための教育に取り組んできた。この「20の修得因子」に関する変化についてチェックすることにより、また新たな教育の手法も生まれていくと考えている。

○C 委員：

大学として教職課程について、スケジュールをたて、組織の構築、学生の育成、キャリア支援、地域社会との連携等、真摯に考えて取り組んでいることを実感した。また、そのうえで学生の指導をしている現場があり、業務の多さを痛感した。スケジュールに基づいた自己点検をしているということ、教職課程出身者の中から、地域の学校教員も輩出しているという姿勢に対して、敬意を表して評価した。今後、報告書の公表に向けて記載内容の不備は適宜修正していただきたい。

○D 委員：

教育現場にいる立場から観ると、教員の質向上のために文部科学省は大きく動いたのだらうと考えられる。工業高校は、八戸工業大学出身教員をはじめ教員自身が元気であり、高校生も元気である。学生への個別面談は非常に手間、エネルギーが必要だが、実は一番重要である。どんな生徒を育てたいのか、どんな未来の若者を育てられるかという思いを持った学生を1人でも多く排出するようになれば、ますます八戸工業大学の存在意義が大きく高くなるのではないか。たとえ先生の知識が多少欠ける部分があったとしても、生徒と一緒に勉強する、生徒の心に火をつけるという、志を持った人から教わる生徒は幸せである。そういう思いのある学生をこれからも育てていただくためには、個別の面談は大事だらうという感想を持った。

○E 委員：

教育カリキュラムを整備している点は高く評価したい。ICT 関連では日本は国際的な水準では非常に低いため、文部科学省は ICT 教育の充実に大きく舵を切っている。今後は、ICT 機器を活用した教育カリキュラムに少し基軸をおいて、重点的に人材を育てるということも必要と感じられた。

「20 の修得因子」について丁寧に取り組んでおり、特に地域に根ざした体験や、実践的な指導力育成プログラムが非常に充実しているため、その点も素晴らしい。

教職課程の目標を明確に定めて、学生に可視化し、情報発信をすることについて今後期待したい。

○A 委員：

教職課程を終えた学生の何割が教職に就くのか。

●阿波学長補佐：

履修者数は年度によって差があるが、1 学年 20～30 名程度が履修しており、そのうち、昨年度は 10 名弱が教職に就いている。

○A 委員：

教員志望者不足により八戸市も欠員が多く人員募集で苦勞している。教育分野への理想と熱意を持った学生を増やしていただければ有難い。また、八戸工業大学は青森県全体でみても非常に貴重な存在。役割を發揮し牽引してもらいたい。過去に、青森県は工業製品

出荷額の伸び率で日本一になったことがある。大いに伸びしろのある分野だと思う。八戸は昔から科学する心の教育に大変熱心な土地柄。そういう先人の熱い思いを伝えて環境を整えていきたい。八戸工業大学にもそういう方々を応援して、後に続く子どもたちを育成していただければ有難い。

○B 委員：

青森県の産業が八戸工業大学と接点を持つにはお互いにどうすればいいのか。八戸工業大学が様々な事をして、これを活かすものがなければ発展がない。企業と大学との接点をどのように大きくしていくか、八戸工業大学を位置付けたいというのは工業界の気持ちであるがどうだろうか？

●坂本学長：

正直、交流のあり方は常に考える。連携、交流、協力と言葉はあるが、具体的に垣根を越え、互いができる仕組みはどうあるべきなのだろうかと考えている。産業界からの講演依頼を受けているがそういった活動もヒントの一つである。要するに、動かないと何も始まらない。どう動くかが課題。

●金子学長補佐：

産学連携を担当している。ブランディング事業を足がかりに大学側から企業に出向き接点を持った。意外に様々な話が聞けるということがわかった。しかし、この活動は人に依存する部分もある。そのため、共同研究、就職等の様々な接点を膨らませていくことが必要。

#### 【講評】

教育について非常に手厚く、また、資料も細かく詳細に作っており、教職課程自体は素晴らしく、高く評価させていただきたい。また、自己点検・評価について粛々と実施する体制が確立されている点も高く評価できる。

今後の課題は、外部への情報発信・可視化である。産業界からは、教育に携わる人材を輩出していただきたいという要望がある。教職履修希望者は、一定数いるものの履修の大変さから離脱も多い。これは、仕方がないことではあるが、学生に教育の素晴らしさや、教職課程の状況等をしっかりと伝え、履修者の増加につながることを期待する。

八戸工業大学出身教員が、県内の工業高校等で非常に活躍をされている。これは大変素晴らしいことである。熱意を持って生徒たちを指導している教員が多いという貴重なコメントもあった。八戸工業大学の教職に携わっている先生方が、学生に対して熱意を持って接し、素晴らしい学生を育て、そして学生が教員としてまた生徒に伝えるという過程は非常に重要だと考える。

今後、教育課程の長所を「見える化」し、情報を発信していくことにより、さらなる八戸工業大学の発展に期待する。

以上で議事が終了した。

V. 資料一覧

教職課程自己点検・評価活動	
資料 1	八戸工業大学 教職課程自己点検評価 報告書（案）
資料 2	令和 4 年度八戸工業大学 教職課程自己点検・評価結果
関連資料	
参考資料 1	【文部科学省】 教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令の施行等について（通知）＜抜粋＞
参考資料 2	【文部科学省通知により全国私立大学教職課程協会提示】 教職課程の自己点検・評価の観点（教職課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドラインより）
参考資料 3	【全国私立大学教職課程協会】 「教職課程自己点検評価報告書」作成の手引 令和 4 年度版(改訂版)＜抜粋＞
参考資料 4	令和 4 年度八戸工業大学 教職課程自己点検・評価実施要項
資料 1. 八戸工業大学 教職課程自己点検評価 報告書（案）に係る根拠資料	
資料 1-1-1 ～ 資料 1-1-4	基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有に係る根拠資料
資料 1-2-1 ～ 資料 1-2-7	基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫に係る根拠資料
資料 2-1-1 ～ 資料 2-1-8	基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成に係る根拠資料
資料 2-2-1 ～ 資料 2-2-7	基準項目 2-2 教職へのキャリア支援に係る根拠資料
資料 3-1-1 ～ 資料 3-1-4	基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施に係る根拠資料
資料 3-2-1 ～ 資料 3-2-3	基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携に係る根拠資料